

# 平成26年度 学校自己評価システムシート ( 県立吹上秋桜高等学校 )

目指す学校像	多様な学習歴や生活環境、ライフスタイルを持った生徒の新たなチャレンジを とことん支援する学校
--------	---

重点目標	1 「授業がいのち」を基盤とした基礎学力の定着 2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の涵養 3 生徒一人一人の興味・関心・能力・適性に即した進路指導の充実 4 開かれた学校づくりの推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 2 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的意識や進路意識をしっかりと持ち、講座を選択し、学習活動に積極的に参加する生徒も多い。反面、学習活動に消極的で学習内容が定着せず、基礎学力が乏しい生徒も少なくない。</li> <li>未履修科目を持つ生徒の割合は減少したが、なお約26%にのぼっている。いっそう授業の大切さを自覚させ、出席を促す指導が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の興味、関心及び進路に応じた科目の履修指導と、少人数システムを生かした効果的な学習指導を展開する。</li> <li>学習において、生徒がどの時点で躓いたかを把握し、より一層の学習内容の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力向上のため、「授業がいのち」の秋桜スタンダードを基本に指導計画を改善する。</li> <li>②学力向上委員会を中心として学び直しのための自習を計画的に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①指導計画及び生徒の授業への取組状況等が改善したか。</li> <li>②学び直しのための自習が計画的に行われたか。また、参加した生徒の成績が向上したか。</li> <li>③未履修率が25%以下か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に対する生徒の満足度はやや向上した。提出物は改善が見られるが、自主的な学習においてはやや二極化の傾向がみられる。</li> <li>・自習(コスモステップ)は教員でローテーションを組み、毎日3回ずつ行った。参加者約50名。「わかる」ことを体験し、ほぼ全員の確認テストの成績が向上。</li> <li>・未履修率は前期28.7%と増加した。</li> <li>・D3の比率は2年次は60.5%だったが、1年次では75.0%となった。</li> <li>・未履修率は30.3%で1割強増加。</li> </ul>	B
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学時代に不登校だった生徒の56%に改善が見られる。</li> <li>・教員集団の協力のもと、生徒特別指導件数は、前年度比36%減となったが、引き続きルールとマナーの向上を図る指導が必要である。</li> <li>・単位制のため、生徒の時間割に空き時間帯が生じている。中抜け等の無断外出の防止を工夫する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の中で、社会の一員としてのルールとマナーを常に意識させ、基本的な生活習慣を定着させる。</li> <li>・教務事務システムのデータを利用した生徒指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①立哨指導や校外巡回指導を実施し、問題行動の防止に努める。</li> <li>②保護者及び外部機関と連携し、生徒指導への理解と協力を得る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①遅刻や中抜け等の無断外出、問題行動の件数が減少したか。</li> <li>②退学者が減少したか。</li> <li>③集団生活におけるルールとマナー、整容等の向上が見られたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席は14%減となったものの、遅刻は9%増加、早退は4%増加した(前期)。生徒特別指導件数は前年度より18%減少、退学者は15人減少(1月末現在)。</li> <li>・進路行事等の節目において、整容指導を実施した結果、生徒の整容に向上が見られた。</li> <li>・教務事務システムのデータは三者面談で活用するとともに、保護者に提供した。</li> </ul>	A
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定率は向上したが、未定の生徒も多い。三期生の卒業に向け、進路実現に向けた支援をいっそう強化する。</li> <li>・4年次生の54%、3年次生の14%、2年次生の29%、1年次生の30%で進路希望が未定である。卒業後のイメージを持ってない生徒の進路意識を啓発し、授業への意欲を喚起させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の興味関心や適性を認識させる指導の機会を多く持ち、生徒の進路意識を啓発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①産業社会と人間、総合的な学習の時間及びLHRを活用して、計画的なキャリア教育を実施する。</li> <li>②系列・コースやモデルプランをもとに科目選択・履修指導を行う。</li> <li>③進路実現のための補習を平日及び長期休業中に実施し、基礎学力の向上を図るとともに、進路実現につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路決定率が向上したか。また、就職率が県定時制高校の平均を上回ったか。</li> <li>②各年次生において進路希望未定者が減少したか。</li> <li>③補習が計画的に実施でき、基礎学力が向上したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定率は前年度と同程度だった。就職率は90.5%(県定時制高校64%)を達成した。</li> <li>・1・2年次生の希望未定者は前年度と同程度だったが、3年次生は半減した。</li> <li>・3年次生は毎週水曜日及び長期休業日に10日間、1・2年次生は長期休業日に5日間の進路補習を実施した。参加者は昨年並みだったが、出席状況は前年度より良好だった。</li> </ul>	A
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPへのアクセスは年間約8万件あり、メール連絡網システムによる情報提供も行っている。</li> <li>・大学や専門学校との連携事業が毎年行われている。</li> <li>・PTA、後援会等と継続して連携するとともに、地域の理解を得るため、駅の清掃、ボランティア活動、インターンシップ等を継続する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPの充実とメール連絡網システムの活用で、積極的な情報発信をし、本校への理解を深めてもらう。</li> <li>・PTAや地域及び近隣の大学や専門学校との連携事業を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①HPの運用方法を明確にするとともに、更新を計画的に実施する。</li> <li>②メール連絡網システムの加入率を上げるとともに、これによる情報発信を年10回以上行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①HPの内容が充実したか。また、アクセス数が増加したか。</li> <li>②メール連絡網システムの加入率が上がったか。また、情報提供を何件実施したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度全面的に改訂したHPを活用し、随時更新した。</li> <li>・メール連絡網システムでの情報提供は前年度を上回り、10件以上実施した。</li> <li>・ボランティア参加者は延べ94名、延べ1118時間と大幅に増加した。インターンシップは3年ぶりに参加者があり、いずれも生徒にとってよい体験になった。</li> <li>・連携事業への参加数は減少したが、生徒の取組は大変良かった。</li> <li>・PTA・後援会行事の参加者数は若干減少した。</li> </ul>	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成27年 2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○未修得者を少なくするためには、家庭の協力が一層得られるよう働きかけることが重要ではないか。</li> <li>○上級学校進学後の中退防止のため、生徒の学力をさらに伸ばす必要があると思う。</li> <li>○保育、情報、自動車など様々な授業が選べる。また、いろいろな資格に挑戦することでスキルも上がっていく。魅力的だと思う。</li> <li>○コスモステップの試みは大変評価できる。来年度はそれをさらに充実させ、多くの生徒に広げてほしい。また、秋桜スタンダードをさらに研究して生徒の基礎学力を高めてほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校は年々よくなっており、明らかに落ち着いてきた。先生方の努力の成果ではないか。毎朝立哨指導(遅刻・整容)をするとさらに良くなると思う。</li> <li>○校内の駐輪場のマナーが悪いので対策を講じたほうがよいと思う。</li> <li>○本校に対する生徒の満足度が非常に高いことに感心した。生徒会役員は責任感も高く、よく考えて行動している。それを他の生徒にも波及させてほしい。</li> <li>○本校はいい意味で自由だが、自由ほど大変なものもないということを生徒が自覚するとさらによくなると思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○公の奨学金や企業内奨学金等の利用を勧めるなど、経済面理由による進学断念や国家資格取得等断念が少なくなる指導をすすめたほうがよいと思う。</li> <li>○安易な就職は離職につながるが、本校では先生方の粘り強い指導により、生徒も成長し、より自分に合った就職をしていることがわかった。</li> <li>○キャリア教育を充実させ、社会への理解を深めれば進路状況がより充実するのではないか。</li> <li>○大学の上位校を目指す生徒がいることは後輩たちにとってもよい影響があるのではないか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校に算数ボランティアに来ている生徒が、児童の課題の状況を把握してくれて担任も助かっている。よい社会体験になっていると感じている。</li> <li>○ボランティア、インターンシップをより活用することで、実社会を経験させ、就業に関心を持たせるとよいと思う。</li> <li>○本校のよいところを中学生にどんどん伝えてほしい。そうすれば、生徒や周囲の意識も変わってくるのではないか。</li> <li>○メール連絡網システムで本校の情報を積極的に発信していけば、保護者がより学校に目を向けてくれるのではないか。</li> </ul>	